

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)について

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

ORIGINAL ARTICLE

Fever with Thrombocytopenia Associated with a Novel Bunyavirus in China

N ENGL J MED 364;16 NEJM.ORG APRIL 21, 2011



Into the hot zone. Xue-jie Yu (*left*, in blue shirt) looks on as farmers check a dog for ticks; forest-hugging farms (*right*) were hard hit by the emerging virus (*inset*).

SFTS

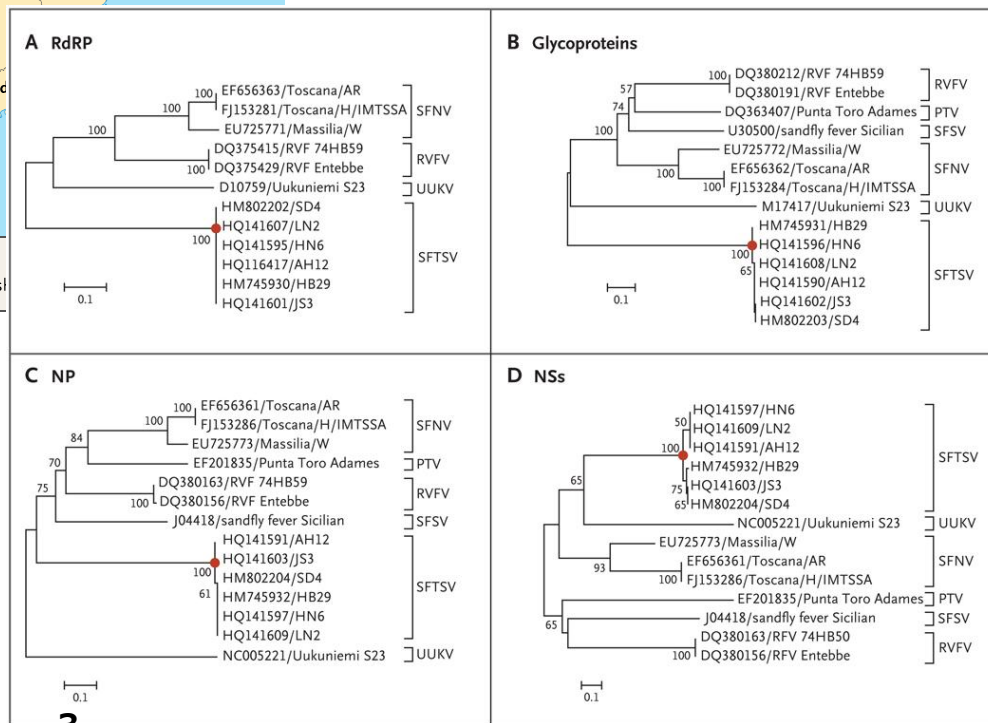
- ダニ媒介性感染症
- 2009年中国湖北省と河南省の山岳地域
- ヒト顆粒球アナプラズマ症などの感染性疾患に類似
- 発熱、胃腸症状、血小板減少、白血球減少
- 21/171(12%) 死亡
- **新種のブニヤウイルス(SFTSウイルス)**
- 血液や体液との直接的接触によるヒトからヒトへの感染
- 患者血清中 10^3 - 10^9 コピー/ml
- 流行地域のフタトゲチマダニ 5.4%陽性



Figure 1. Geographic Distribution of SFTS in Mainland China.

Areas where SFTS surveillance was carried out and SFTS bunyavirus was isolated from patients are shown in red.

ブニヤウイルス科 フレボウイルス属

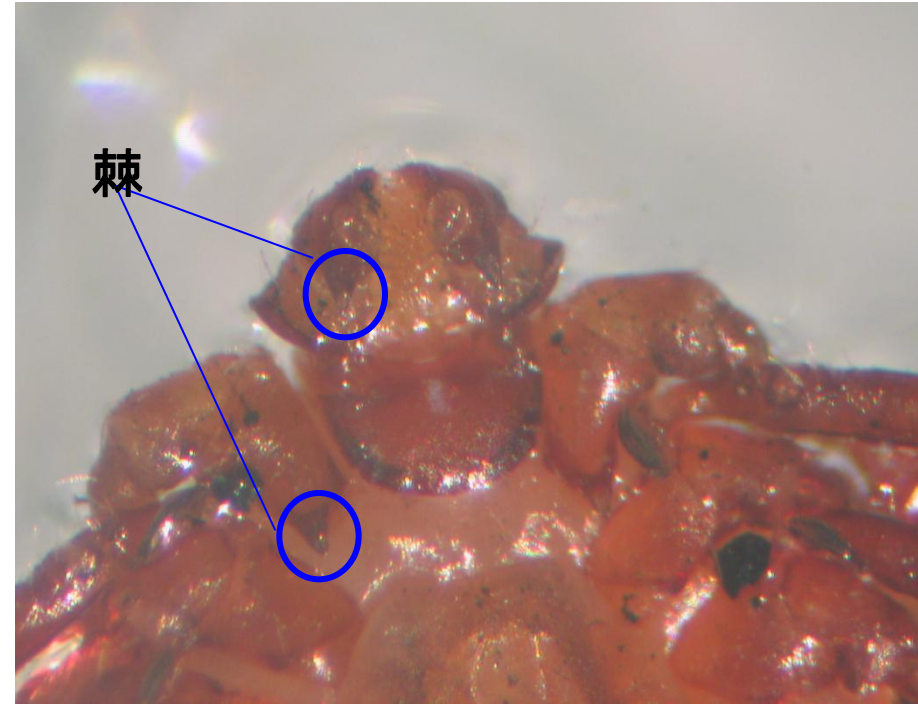


フタトゲチマダニ

Haemaphysalis longicornis



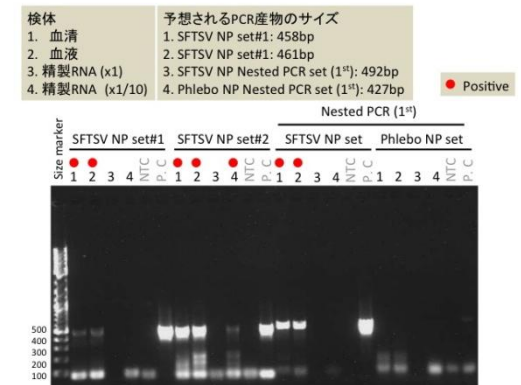
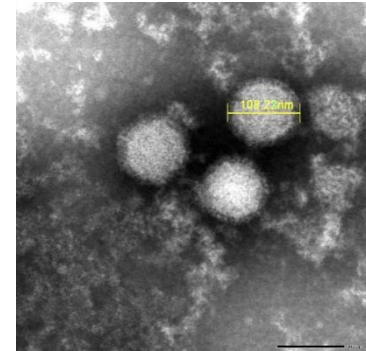
- 日本全国に分布
- バベシア症原虫
- 日本紅斑熱リケッチア



日本におけるダニとSFTSウイルスの
関連については、今後の調査を待たな
くてはならない。

日本で初めてSFTSと診断された患者

- 患者: 海外渡航歴のない成人患者
- 時期および場所: 2012年秋, 山口県
- 症状: 発熱、嘔吐、下痢(黒色便)
- 検査所見: 白血球数($400 /\text{mm}^3$)と血小板数($8.9 \times 10^4 /\text{mm}^3$)が著明に低下していた。また、AST、ALT、LDH、CKの高値が認められた。血液凝固系の異常、フェリチンの著明な上昇も認められた。尿検査で血尿、蛋白尿が認められた。骨髓穿刺検査により、マクロファージによる血球貪食を伴う低形成髄の所見が認められた。
- ウイルス学的検査所見
 - 血液から分離されたウイルスの性状が中国で分離されているSFTSウイルスと同様であった。
 - 急性期患者血清からSFTSウイルス遺伝子が検出された。
 - SFTSウイルス抗体は陰性であった。
 - 分離ウイルスの遺伝子塩基配列を用いた解析によると、中国分離株とは独立していることが明らかにされた。
- 病理学的検査: リンパ節等にSFTSウイルス抗原が検出された。
- 診断: 重症熱性血小板減少症候群



今後必要な調査・研究

- 日本における疫学調査
- 感染リスクの評価
- 診断法の地方衛生研究所への整備
- 診療・診察のあり方の検討
- 治療・予防法の開発 等